

署長が語る

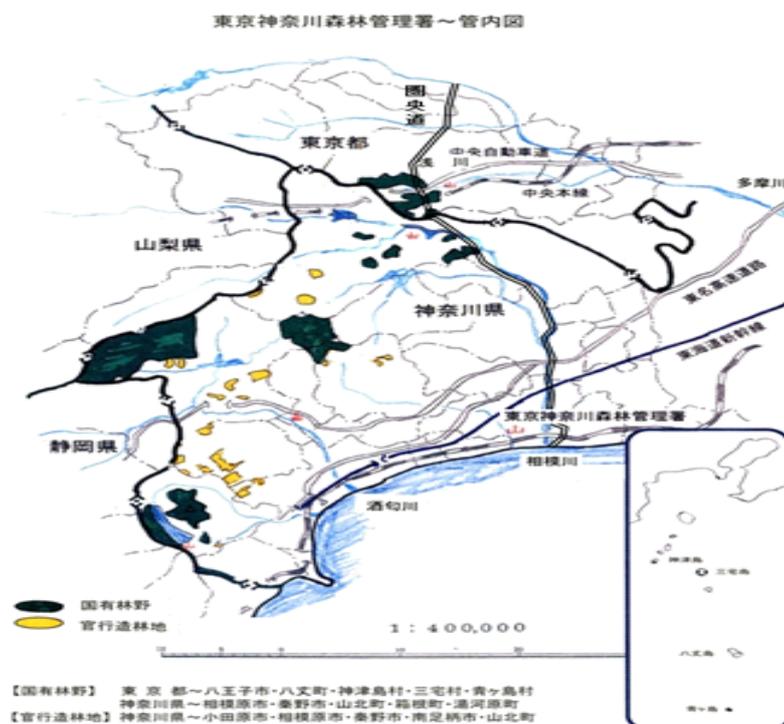
東京神奈川森林管理署 署長 鶴園 重幸

1. はじめに

東京神奈川森林管理署は、東京都や神奈川県に所在する約1万1千haの国有林と、約1千haの官行造林地（民有地に当署が造成した森林で、将来、土地所有者と収益を分収することになる森林）を管理経営しています。

当署が管理する国有林のある高尾山、箱根・芦ノ湖、丹沢には、それぞれ年間、260万人、190万人、50万人もの市民が癒やし等を求めて訪れています。また、相模川など、大都市圏を潤す河川の水源地域にもなっています。

国有林の管理は、それぞれの国有林において重視すべき機能に応じて5つのタイプに区分し、その区分に応じた管理を行っていますが、当署の国有林は、レクリエーションなど国民の森林とのふれあいの場の提供を重視する「森林空間利用タイプ」や、雨水を蓄えゆっくりと川に流して洪水や渇水を緩和し清廉な水を育むことを重視する「水源かん養タイプ」の森林が多く、それぞれ30%を超える水準となっているほか、自然景観の維持、動植物の保全を重視する「自然維持タイプ」も30%近くとなっていて、自然環境の保全、水源のかん養等の公益的機能を維持増進する管理経営を行っています。



2. 高尾～津久井

高尾山は、首都東京都に所在しながら豊かな自然を残し、多くの動植物が生育しています。770haと規模は小さいものの国立公園にも指定されており、国有林450ha余りがこの核心部分を構成しています。国有林は、国立公園の外側、近隣のところにも所在しており、これらも合わせると1200ha近くに達します。

さらに、高尾山の南側、神奈川県側になりますが、相模川を挟んだ対岸に津久井の国有林700ha余りが所在していて、このエリア一帯の景観を形成しています。江戸末期の幕臣で、相模や駿河等の天領を管轄し、黒船ペリーの来航に備え軍備近代化のために反射炉を建設した江川太郎左衛門が植栽したという高齢級の美しいヒノキ人工林を見ることが出来ます。

高尾山には、年間260万人もの市民が訪れています。平日でも驚くほど多くの観光客で賑わっています。しかし、夜間は一変、タヌキ、キツネ、ムササビ、テン、アナグマ、ア

ライグマ、シカ、そしてクマさえも闊歩しているようです。国有林内に設置されたセンサーカメラがこれらを撮影しています。高尾山は、昼間はヒトで溢れているのですが、夜間は野生動物の世界となっているようです。

高尾山は、今から 1200 年程前、聖武天皇の勅命を受けた僧の行基により開山されています。薬王院が置かれましたが、これは真言宗の寺院である一方、社殿の前には鳥居があることから神社でもあります。この形態は、かつて神仏が分離する以前の姿を今に残すものとされています。

高尾山は、今も霊山として、信仰の山として、大切に守られています。修験道の道場があり、肉を用いず旬の野菜の味わいを生かす精進料理でも有名です。

森も特徴的です。南斜面には、シイやカシ等のドングリのなる木に代表され、九州や四国といった西日本に多く分布する常緑照葉樹林が見られます。これに対し、北斜面は、東日本に多く分布する落葉広葉樹林をなすブナ、イヌブナの優先するところが見られます。さらに、尾根あたりではモミ等の針葉樹とコナラ、カエデ等の広葉樹が交ざる針広混交林の様相を呈するところも見られます。針広混交林は、北海道でよく見られる林相です。日本のあちらこちらに行かずとも、高尾山に行くだけで、日本の代表的な樹林帯のイメージを得ることができます。

ところで、今や国民の 2 割から 3 割が花粉症にかかっているとされています。その原因については、食生活の欧米化や大気汚染も影響しているといわれますが、スギ等の花粉によるところとされています。

そこで、高尾山の国有林では、水源かん養や保健休養等といった公益的機能を落とすことのないよう注意しながら、スギ等の本数を間伐等により次第に減らすとともに、鳥や風が運んできた種等から芽吹いた広葉樹を育成することにより、スギ等の一斉林を多様な樹種からなる針広混交林に誘導しています。また、苗を植え込む場合には、広葉樹や少花粉・無花粉の苗を植えています。

高尾山には、森林ふれあいセンターが置かれていて、国有林を活用した森林環境教育や NPO 等と連携した様々なイベント等を実施しています。



賑わう春の高尾山



賑わう秋の高尾山



立ち上がり周囲を警戒するテン



樹齢150年生超え、直径70cm程になった江川ヒノキ林

3. 箱根

箱根は、江戸時代、厳しい地形を活かして、芦ノ湖湖畔に徳川幕府を守る要衝となった関所が置かれていました。旅人は、東海道を延々と歩きながら、やはりここが街道一の難所だと感じたことでしょう。疲れを癒やす宿場も発達していました。

今日では、箱根カルデラを形成する芦ノ湖、大涌谷、仙石原等の特異な景観、各地で湧く豊かな温泉等により、保養地・観光地として発展しており、国立公園にも指定されてい

ます。

国有林は、この芦ノ湖を取り巻く形で、1400haほど所在しています。

NHKの天気予報でよく映し出されますが、芦ノ湖の東岸側には、湖面に立つ鳥居が印象的な箱根神社があります。本殿は、箱根連山の最高峰「神山」(1438m)そのものを拝礼する特異な造りなのですが、実はこの神山、さらにその周辺の森林も国有林です。

そこからもう少し標高の低い湖畔寄りのところに目を移せば、街道跡やこれに沿って立ち並ぶ400本ほどの大杉の並木が見られます。この部分は民地となりますが、大杉は1600年代初期に箱根宿が設けられた頃に植えられたとされています。

芦ノ湖の西岸側も国有林です。高齢級のヒノキを主体とした立派な森が造成されています。しかし、江戸時代は、西岸側は何もない草地でした。これは、芦ノ湖湖畔に関所が置かれており、監視を確実にするため、火入れをして人が隠れにくい草地にしていたからです。江戸に入る鉄砲と江戸から出る女性を厳重に監視していたとされます。でも、鉄砲を監視するというのは分かりますが、女性だけ、しかも、江戸から出る場合だけを監視するとはどういうことでしょうか？ 実は、女性とは大名の妻子を意味し、その妻子が江戸から国元へ戻ることをしないよう、監視していたのです。江戸幕府は、大名の妻子を江戸屋敷に住むよう義務づけて、いわば人質にすることにより、大名の反発を押さえ込んでいたのです。大事な人質がこの関所で逃げられないようにしていた訳です。なかなか、したたかです。

明治時代になると、同じ湖畔で現在の恩賜公園の位置に、今度は皇族の避暑と外国からの来賓を迎える離宮が建設されることになりました。そうすると、そこから一望できる芦ノ湖西岸側は、何もない草地であるより、「御用林経済上は勿論、離宮の風致上から見てもなおざりにすべきではない」として、「もっぱら力を造林に尽くし、傍ら林相が粗悪である湖面の山々及び白ヶ浜方面を漸次30年間で改善する」との方針が採用され、「ヒノキを主として広葉樹を適宜混植する」こととなりました。

こうして、芦ノ湖西岸側の国有林は、高齢級のヒノキが林立し、ヤマモミジ等の広葉樹も混交する美しい森となりました。湖畔沿いに延びる歩道は、車両も通行せず、静かな良い散策道になっています。多分に外国人、特に欧米人はレイクサイドが好きですから、この歩道も気に入ってくれると思います。高尾山や次で紹介する丹沢もそうですが、芦ノ湖の国有林も特に優れた森林景観を有するものとして林野庁により「日本美しの森 お薦め国有林」に選定されています。今、政府が推し進める観光立国に向け、当署の国有林を上手に整備・活用し、国民はもとより外国人にもより魅力的なものにしていきたいと考えています。



幻想的な芦ノ湖と箱根神社、富士山



江戸時代の街道跡と大杉並木



草原に造成された芦ノ湖西岸側の森

4. 丹 沢

丹沢は、最高峰の蛭ヶ岳（ひるがだけ）（1673m）をはじめとした数々のピークとこれらを結ぶ尾根、これらの尾根から派生する大小無数の尾根、その合間にある多くの沢、滝で形づくられた複雑な地形をなしています。首都圏から至近の大自然で、国定公園に指定されていることもあって、四季を通じて多くの登山者が訪れています。沢登りのメッカともなっています。

国有林は、丹沢を代表する最高峰の蛭ヶ岳、丹沢山、塔ヶ岳、鍋割山の山頂を結ぶエリアに約2200ha所在しています。多くの登山道が配されるとともに、国有林を借り受けて山小屋も置かれています。

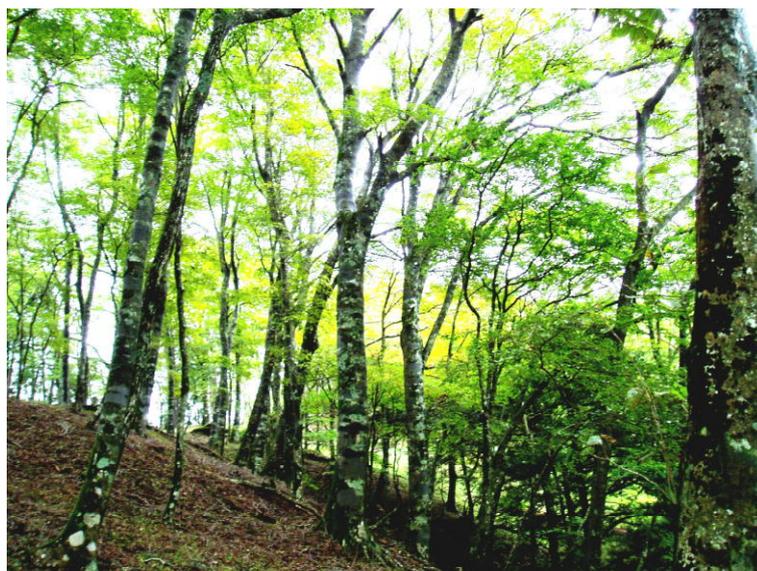
特に、塔ヶ岳と鍋割山を結ぶ登山ルートは、展望が良く比較的アクセスも容易なことから、人気が高いコースです。天気に恵まれれば、塔ヶ岳の山頂からは、西を向けば眼下に山中湖、その先に富士山、東を向けば横浜のランドマークタワーや東京タワー、スカイツ

リー、北を向けば日光連山、南を向けば小田原と相模湾、さらにその先に太平洋に浮かぶ伊豆諸島の大島、興津島も見通せるでしょう。首都圏から、ちょっと頑張れば日帰り登山できるところで、こんな大パノラマが堪能できます。

平成30年には新東名がこの地域に延びて開通し、この国有林に近いところにインターが設けられます。国有林を活用して観光振興に向けた取組を行えないか、今、地元の秦野市、神奈川県とも連携して検討を重ねています。



丹沢山系



登山道沿いのブナ林



人気のコースから小田原、相模湾、大島を望む

5. 世^よ附^づ

世附の国有林は、神奈川県と山梨県や静岡県との県境に接しており、当署が管理する国有林の中では奥地、遠隔地にあります。しかし、団地的には最もロットが大きく、各種事業も多く投入されています。現在、間伐、主伐の林産事業、植え付け、下刈り等の造林事業、土木、治山事業等を実施しています。

先般は、当署の主催で、林政の重要課題の一つである低コスト化についての現地検討会も開催しました。林業の成長産業化に向け、造林コストの低減を目指すもので、造林費用の7割を占める下刈りまでの費用やシカ柵設置にかかる経費を上手く工夫等して縮減できないかというものです。神奈川県や市町村、林業事業者、近隣の森林管理署等から計118名が参加しました。参加者は2つのグループに分かれ、2箇所用意したフィールドを交互に巡回し、意見交換しました。

下刈りの低コスト化については、木材の収穫後、直ちに地表の枝条の整理など植え付けの準備、下拵えを行い、続けて直ぐに苗木を植栽することにより、苗木の生育を妨げる下層植生の発生と繁茂を抑制できたこと、現地の状況から1回目の下刈りを行わなくても植栽木は問題なく生育すると見込まれたため下刈りを省略したこと等を説明しました。その上で、実際に植栽木が順調に生育していることや下層植生が植栽木を被圧していないこと等を確認しました。

また、シカ対策用の柵としてネットを斜めに張ると、シカが植栽木に近づこうとするほど、足がネットに絡むようになるので、シカはこれを嫌がって近づこうとしなくなり、ネットは破損されにくくなる、このため、斜め張りのネットは強度を高めたステンレス入りでなく、安価なポリエチレン製で済むといった具合に、シカ柵の設置方法別の特徴、コストなどを説明しました。

林業・林産業の低コスト化が進むと、造林、生産、加工の各段階での収益性が上がって、森林所有者への還元が高まり、外材に対する競争力も向上します。森林所有者は、そうやってこそ森（づくり）を魅力的なものとして再認識し、伐って利用して、また植えて育てていくという気持ちになるのだと思います。私たちが目指す循環利用の段階に入っていく訳です。正に低コスト化が今後の世界を開く鍵だと考えています。今回の現地検討会では、活発な意見交換が行われ、低コスト化の必要性や関連した情報、知見が共有できたと考えています。

ところで、世附の国有林は、前述のように主要な事業地となっていますが、各種事業を難しくする特殊なスコリア土壌が分布しています。かつての富士山の噴火で積もった火山灰の一種で、全く粘りがなくザラザラとした質感の土壌です。非常に洗掘、崩壊しやすい土壌で、特に急傾斜地では危険です。平成22年9月の台風では、このエリアに10時間で800mm近い豪雨があり、特に林道に甚大な被害が生じました。このため、スコリア土壌の上では、森林整備にしても土木・治山にしても、色々と工夫しながら進めていくことが必要となります。その結果として、例えば復旧された林道では全国で初めての工法を採り入れたり、木材を多用したりしていて、展示効果もあるものとなっています。



シカネットの張り方の違いと費用等を確認した現地検討会



難所に初めて導入した垂直壁の補強土壁工



間伐材を多用して景観にマッチした残存型枠工

6. 伊豆諸島

当署は、三宅島、興津島、八丈島といった伊豆諸島の国有林も管理経営しています。民有林と国有林との境界を保全する管理事務や、火山の噴火で消失した森林を再生する治山事業を行っています。これらの島には、調布市の空港から搭乗者数20人ほどの小さな飛行機に乗り込んで行くことになります。

伊豆諸島のうち、国有林が所在し、最も遠いところにあるのは青ヶ島です。この青ヶ島に行くには、直行便がないことから、まず最寄りの八丈島へ飛び、そこからヘリコプターで飛ぶか、これがうまくいかなければ貨物船に同乗し4時間ほど太平洋の荒波にもまれてから上陸することになります。この夏も、治山事業の担当職員が行く予定にしていたが、台風等で延期を余儀なくされ、先般、漸く上陸することができました。



伊豆諸島へ（調布飛行場）

7. 終わりに

当署の管理経営する国有林は、他の森林管理署に比べて面積的にも事業量的にも決して大きくはありません。しかし、東京都や横浜市、相模原市等の大都市圏から至近のところにもあるため、憩いの森的な価値がとても高いものになっているのではないかと思います。

当署の場合、森林整備にしても施設管理にしても、こうした期待に対して不断に工夫して応えていくことが大事だと考えています。

また、実際に多くの方に来ていただいており、様々なご意見等をいただいています。も

とより、私たちは、国民共通の財産である国有林を大切により良いものにしようと、各種事業の実施に際しては、法令に照らしても、技術的にも、適切で合理的か確認しながら進めています。ただ、私たちが見落としていることがあるかもしれません。皆様からのご意見を良く聞かせていただき、丁寧に対応していきたいと考えています。

そして、当署の場合、何と言っても人と接する機会が多い訳ですから、多くの方に国有林、林野庁、農林水産省の良き理解者になっていただけるような、そんな仕事をしていくことが大事だと考えています。